

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091400129		
法人名	(株)アガペ		
事業所名	グループホーム アソシエ飯倉		
所在地	福岡市早良区飯倉5丁目2-4		
自己評価作成日	令和2年1月21日	評価結果確定日	令和2年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

去年に続き、「働きやすい職場作り」をスローガンに基づきしているところです。そのため、育成担当者を置き、担当者が3か月に1回本部での研修を行い、ミーティングでうまくいっている点、困っている点などあげていきスタッフ全員で頑張っているところです。働きやすい職場を作ることで、職員の定着率が上がりご利用者様の馴染みの関係づくりにいい影響があると考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和2年2月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「アソシエ飯倉」は小規模多機能事業所と併設型の2ユニットグループホームで、平成23年12月開設された。法人は調剤薬局、介護事業所を複数展開している。去年に続き「働きやすい職場作り」をスローガンに、育成担当者を置き、本部で研修を受け、各事業所内で報告、フィードバックを行う。働きやすい職場作りという共通のテーマで、産休あけの仕事時間短縮、産休、希望休などへの対応で、職員の定着率を上げ利用者との馴染みの関係づくりに力をいれている。外食レクで、回転ずし、活魚茶屋などに利用者ほぼ全員で行った。事業所の中庭で、クリスマス、餅つきを行った。敬老会では、小学生の訪問があり剣道の素振りを行ってくれた。地域の公民館で行なわれた会合で、認知症の理解、支援の方法などの話を行った。今後も近隣住民との関係を深め、活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが		

07 秋は又強くなり、安心して暮らしている (参考項目:30)	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送りに、唱和を行い理念の共有を図るようにしている。	法人の理念とは別に、事業所設立時に施設長が作ったアソシエ独自の理念があり、毎朝、理念の唱和を行っている。理念のなかに、「一人ひとりの思いを尊重し寄り添い、ともに笑い、ともに楽しむ心豊かな時を過ごせるよう」とあるように、理念を全員で共有し実践につなげている。半年に1回振り返る機会があり、今後の半年間には何をしたいか、施設長又は管理者と話し合う機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の参加している。職員に自治会役員がおり、話し合いの場を提供した。地域クラブカフェの参加、施設の祭りの際に地域の人の参加促し、消防訓練時の地域への配慮を行った。	地域の自治会は年1回あり参加している。地域クラブカフェに参加、事業所の祭りの際にはバス停にポスターを貼らせてもらった。事業所で毎年行う「アソシエ祭」には地域の方も招いた。消防訓練を行うときは地域への配慮をおこなった。地域の公民館の会合で認知症の理解、支援の方法などの話を行い、地域住人の参加があり、事業所を見学に見えた人もいた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の公民館の中学校区の自治会が集まる会合で介護についての話をし、認知症の理解についてや支援の方法などを伝えた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、隣に家が建築されホームの植木が隣家に植栽されている木の枝がはみ出して困っていることを話したら、参加家族が「してあげるよ」と言っていたので協力していただいた。	二か月に1回、木曜日に開催。2家族の出席があり、包括からの出席もある。自治会長などにも話はしている。昨年はイベントと併せて行い、家族の参加が増えた。近隣のグループホーム内の連絡協議会に入り、スタッフが参加し、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。近隣のグループホームと会議を一緒に行い、情報交換を行っている。運営推進会議にて隣家に被る植え込みの手入れの話をしたところ、参加家族から手伝いの申し出があり、協力をしていただいた。	昨年イベントと併せて行い、1家族増えたとの事、今後もイベントと併せて行ってみる機会を持たれてみたらどうだろうか。運営推進会議の案内を市の方へも出されてみたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的な連絡の取り合いはないが、事故や連絡すべき事例と判断したときは速やかに報告書を提出するなどの対応を行っている。	年1回集団指導があり、施設長又は管理者が受けた。事業所内の状況、事故報告などは報告書を提出している。メールでのやり取りも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し、3か月に1度に話し合いを行っている。外部の研修にも参加を行い、身体拘束をしないケアを周知するように努めている。	身体拘束廃止委員会を設置し、三か月に1回話し合いを行っている。職員が交代で外部研修に行き、内部に落とされている。夜間にセンサーマット、人感センサーなどを使用している方がいる。スピーチロックは施設長が気に留めた事を書きとめ、ミーティング時に全員で話し合う。帰宅願望が強い方がおり、気分転換を行い、話しを聞いているうちに落ち着いてくる。	

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今回、外部の研修に参加できなかったので内部の研修を行い、虐待のチェックシートなどを用い確認を行った。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については現利用者、元利用者などで制度利用されている方がいるので実務の中で触れる機会があったものの、関係者との話し合いまでは行えてない。	現在成年後見制度を利用している利用者が1名おり、職員は利用されている方は周知している。2年前には外部の司法書士が講師になり、話をしてもらった。今後必要とする利用者がある時には本部に相談する。	成年後見制度などのわかりやすいパンフレットを用意してみてもどうだろうか。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際などは利用者や家族に十分な説明を行い理解、納得をして頂いている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の中でも利用者家族に意見、要望を伺っていますが、日常的な面会時などもご家族様とコミュニケーションをとり意見や要望を聞くように、また話しやすい関係づくりを行っている。	運営推進介護のなかでも利用者家族に意見、要望を伺っているが、家族の訪問は週1~2回あり、コミュニケーションを取り、意見、要望を伺っている。家族が遠方の方はなかなか事業所訪問はできないが、お便りなどで近況報告はしている。運営推進会議の議事録は家族に送信しており、本部から年1回アンケートを送付し、要望を把握し、対応をしている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、アンケート、毎年1~2回の面談を行い職員の意見を聞くようにしており、業務のことなど反映するようにしている。	事業所全体で毎月ミーティングを実施、主に利用者の状況やケアの方法についても話し合い、積極的に意見も出している。年1~2回は施設長、管理者の面談があり、職員の意見、提案などを聞いてくれる。マニュアルを統一し全員で共有するなど意見を出し、すぐに対応してくれ、日頃から意見は出しやすい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度などを用いたり、年1~2回の面談を行うことで個人の目標を設定するなどし達成できているかなど確認し、職員の資質向上なども務めるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の際、年齢、性別で分けることなく採用を行っている。	年齢は20歳代から60歳代と幅が広く、男性、女性のバランスも取れている。休憩時間も1時間あり、休憩場所もある。年1~2回の面談で個人目標を設定し、達成状況を確認するなど、自己研鑽に励んでいる。研修は仕事のなかで受けることができ、勉強の機会が持てる。現在の仕事をより極めたい、レクリエーション、飾り付けなどの勉強をしたいなど、それぞれの目標を持ち仕事に励んでいる。	

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内での研修などで人権や個人の尊厳などを学ぶ機会を作っている。	外部研修はふくふくプラザで認知症の研修を4日間受ける。内部研修は施設長がネットから取り出し、高齢者虐待、感染症、食中毒、成年後見制度などの内部研修を行う。本部での研修は年4回、救命講習がある。	権利擁護団体などからDVDなどを借りて見たらどうだろうか。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、外部研修を受け全職員へフィードバックできるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	西区、早良区のグループホーム内の連絡協議会に入り、話し合いなどにスタッフが参加できるようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前のアセスメント、入所してから本人、家族から話を聞いたり、他利用者との関係性を構築することに努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の際、要望や不安になりそうなこと(緊急時の対応、重介護になった場合など)についてもお話をしてお互い納得できるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様ご本人がグループホームでのサービスが適しているかなど家族とも話し合いを行い納得していただけるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	主に家事活動になっているが、お皿拭きや洗濯ものたたみなど手伝って頂けることを安心してできるよう支援をしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診を行う家族、外出、外泊など家族が協力していただいていることもある。また施設の環境整備などにも参加していただき共に支えていく関係を築くよう努めている。		

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新しく入った入居者で友人の面会、電話や通っていた美容院の方に訪問美容を行っていただくなどした。	以前通っていた美容院の方が事業所に見え整髪をしてもらっている。友人、親戚からの年賀状が届いている。家族以外の知人、友人の来訪も家族と相談の上自由に受け入れている。携帯電話を持ち使用したり、知人から電話があった時は取り次いでいる。今まで得意だった趣味の活動に、小規模多機能ホームへ参加している方もいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	戸外への散歩など複数で行ったり、寝たきりの利用者にも元々会話をされていた方をお部屋へ案内するなど孤立しないよう努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去する前の入所や入院の支援を行ったり、退去した後も利用者様が状況を聞くなどしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時点での情報や、若いころの好きだったこととしていたことなどを確認し現在の支援につなげないかなど努めている。	施設長、管理者が自宅などを訪問する。最初のアセスメントは利用者、家族に書き込んでもらう。利用者及び家族から、利用者のこれまでの生活歴や馴染みの暮らし方、不安な事、要望などを聞き取る。意思を伝えることが難しい利用者には、その時の表情や仕草などで思いを、汲み取るようにしている。把握した内容、情報は全職員で共有する。基本情報は変更があった時は、その都度書き込み、一年に1回書き直す。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族にアセスメント表の記入、ご本人様から話を聞きフェイスシートを作成するなどしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の状況は夜勤者が仕事に入るときに申し送りをして、夜勤者が明けのときに朝の申し送りをして利用者様の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングでの話し合い、家族の面会時に要望などを取り入れ介護計画を作成するようにしている。	家族の訪問時、行事参加の時に、利用者、家族から意見、要望を聞き取るようにしている。日々のケアの実践、結果、気付き、工夫を個別記録に記入している。モニタリングはケアマネジャーが行っており、毎月のカンファレンスに於いて職員全員で情報を共有し話し合い、変化を見逃さないようにしている。担当者会議でこれらの意見、要望及び医師などから意見を取り入れ、ケアマネジャーを中心に介護計画を作成する。3か月から6か月間毎に見直しを行い、変化があれば作り直す。	

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や利用者様の状況把握を行い、本人に合った介護計画を見直しができるように努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	帰宅願望が強い利用者には、スタッフが付き添いで一時帰宅をしてもらい、納得して頂くようにしてもらうなど柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の夏祭り、スーパーマーケット、飲食店など利用をして施設内だけのサービスにならないよう支援をしている。中学の職場体験の受け入れ、高校生のインターンの受け入れも行った。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	元々のかかりつけ医が往診がお願いできる場合はお願いしたり、できない場合でも家族が受診に対応するなどしている。往診も現在、3つの医療機関を選択できるようになっている。	元々のかかりつけ医の方が1名いるが、現在提携医に変更する手続きをしている。他科受診などは家族に対応してもらい、都合の悪いときは事業所で対応する。事業所には看護師が1名おり、週1日勤務している。往診も3つの医療機関から選択できる。緊急連絡室があり24時間対応できる。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、正看護師が勤務に入り、週1の健康管理、そのほかは現場に入ってもらい利用者様の把握に努めてもらい、そのことを介護職に相談、報告をするようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、介護添書を病院に渡している。病院のソーシャルワーカー、医師などとも話し合いを行い治療方針を話し合い、早期退院なども含めて行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、重度化の指針について話を行っている。実際、重度化した場合は家族、職員、医師などとカンファレンスを行うなどどこまでケアできるかなど検討している。	入居の際に重度化の指針について話を行っている。今までに2名の方の看取りを行った。重度化した場合は、常時看護師がいない為、痰の吸引など、医療的ケアをどこまでできるかなど、家族、医師と、話し合いの時間を持ち検討する。現在1名看取りを希望されている方がおり、遠方の家族とは話をしている。2年前に施設長がターミナルケアの外部研修を受け、内部研修に落とした。	今後ターミナルケアの受け入れがある事を想定し、研修や勉強会を企画されることにも期待したい。

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、消防署の救マークの認定を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防(避難)訓練を日中、夜間想定で行っている。消防訓練を行う際は、近隣の方に行うことを伝えている。	災害マニュアルは作成している。年2回消防(避難)訓練を日中、夜間想定で行っており、一回は消防署員に立ち会ってもらっている。近隣の方に消防訓練の際にベルを鳴らすことへの説明を行った。3日間分の防災用の水の備蓄はある。	公民館とのつながりを持ち情報収集を行い、地域の防災訓練に参加するなどしてみたらどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちつつ、年上である利用者様に敬意を持ち話すように指導している。接遇などについても、内部の研修などを通じて行うようにしている。	施設長が言葉かけに気が付いた時は書きとめておき、ミーティング時に話し合いを行う。接遇やマナーについての研修も行っている。プライバシーの研修では「トイレは閉めましょう」に心がけている。写真使用の同意はもらっているが、同意書はとっていない。	写真を使用する時に同意書はとられていないとの事だが、同意書をとられてみてはどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	場を設けても特にないという方が多いので、利用者様との普段の会話に留意している。1例だがパンが好きだと話している利用者様に、朝食時に提供するなどした。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、あまりこだわりすぎないようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際に余所行ききの洋服にしたり、普段の洋服も毎日同じものにならないようにしたりしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	外出時にメニューを選んで頂いたり、好きなおやつを聞いたときに提供するなどしている。簡単な配膳、お盆拭きなど手伝って頂いている。	外食レクでは回転ずし、活魚茶屋などに行った。アソシエ祭ではアソシエグループの厨房でクッキーを焼いてもらった。朝食時にパン、コーヒーを提供することがあり、小規模多機能の職員がアソシエグループの厨房で焼いてくれた。玄関前の傾斜を利用し「そうめん流し」を楽しんだ。職員と一緒に好み焼きを焼いたり、ホットケーキの混ぜ合わせをしたり、恵方巻を一緒に作った。食事の際に、メニューを読んでもらったり、おかずを継ぎ分けたり、お盆ふきなども手伝ってもらう。	

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記入や嚥下状態の把握に努めている。一口大、刻みなど利用者さまに合った食事形態にするようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの確認や気になる人は訪問歯科に検診をしていただくなど利用者様にあった口腔ケアを行うようにしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意の訴えが難しい方は排泄表で、感覚を掴むなどして誘導を行うようにしている。安易に、オムツにするなどしないようにも務めている。	一人1枚の排泄チェック表がある。チェック表に基づき声かけを行うなど、職員同士で情報を共有し気が付いたことがある時は改善提案をするようにしている。大きなパッドから小パッドに変更できたり、日中はリハビリパンツ、布パンツに変更できたりとトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食後前に冷たい水の提供や牛乳など提供や入浴時に腹部のマッサージなどを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の希望に沿っての入浴はなかなかできていないが、	週2回、10:00～15:00内で入浴を行っている。1階が機械浴2階が三方介助のできる普通浴である。シャンプーは好きな物を使用したり、入浴剤で気分転換を図ったりしている。皮膚管理など看護師に見てもらい健康管理に役立っている。コミュニケーションの場として入浴を楽しめるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬だと、就寝前に暖房をつけて温めたり就寝中も居室の温度を確認するなど留意をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を行わないよう、スタッフ複数で確認を行い、利用者様にも日付、名前など確認をおこなっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ごみ捨てや洗濯ものたたみを仕事と思っている利用者様に役割を持っていただいたりしている。		

2020.2自己外部評価表(アソシエ飯倉)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿っての外出はほとんどできていないが、天気の良い日に戸外の散歩や中庭での日向ぼっこを行うなどしている。	外出レクは車を使用しユニット毎で行く。回転ずし、活魚茶屋、定食屋さんなどに行った。天気の良い日に近隣のスーパー、ドラッグストア、などに行きお菓子などをかう事がある。中庭で日向ぼっこを行い、季節の移ろいを感じてもらっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる人は、一緒に買い物に行くなどしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている人がおり使用している利用者様もいる。使用方法がわからないときは手伝うなどしている。利用者様に知人から電話があったときは取り次ぐこともしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	正月に鏡餅をおくなど、季節に合った飾り物を置いたり、飾ったりしている。	ホールは両側に窓があり明るい日差しにあふれている。ゆったりとテーブルが配置され、キッチンにカウンターテーブルが備え付けられ、そこでもゆっくりと過ごすことができる。各部屋の入口には誕生月の花の絵が飾られている。中庭にはテーブル、いすがあり、外の風情に触れながら、お茶を楽しむことができる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の相性やその利用者の性格などを考慮して座席やテーブルの配置、カウンターの利用等を決めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドとタンスは据え置きのももあるが許す限り、椅子やテレビなどお部屋で過ごせるように物の持ち込んでいただいたり、使い慣れたものなども持ってきていただいたりしている。	ベッド、タンスは据え置きのももあるが、使い慣れたものや好みの物は持ってきてもらっている。各部屋には天袋の収納場所があり、室内の整頓ができる。家族の写真を飾ったり、自分の好きな物を側に置き、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お部屋やソファからの動線を考え、利用者様にとって危険であるものは除いたり、居室の場所がわからなくなる利用者様のために貼り紙をするなどしている。		